

## 2015 年度藻類談話会のお知らせ

「藻類談話会」は藻類を研究材料とする幅広い分野の研究者の集まりで、西日本を中心に講演会や研究交流を行っています。これまでの談話会の講演内容は、藻類談話会ホームページ (<http://www.research.kobe-u.ac.jp/rcis-kurcis/danwakai/index.html>) でご覧いただけます。今年度は以下の講演を企画しています。ふらってご参加くださいますようお願い申し上げます。

日時：2015年11月7日(土) 13:00-17:00

場所：神戸大学理学部Z棟2階Z-201/202室(神戸市灘区六甲台町1-1)

### 講演予定(敬称略)

鈴木雅大(神戸大・内海域)：汎存種紅藻ベニスナゴの分類学的研究

田中学, 幡野恭子(京産大・総合生命, 京都大・人間環境)：緑藻アミドロにおける多核巨大細胞の形成機構

山下洋(水産総合研究センター・西海区水産研究所)：褐虫藻と呼ばれる *Symbiodinium* 属渦鞭毛藻の生態 ～動物との共生機構を中心に～

内藤佳奈子(県立広島大・生命環境)：微細藻類の鉄利用特性について(仮題)

参加費：300円。談話会終了後、生物学科セミナー室で懇親会を行います(会費：一般3,000円, 学生1,500円)。談話会および懇親会の参加希望者は10月28日(水)までに電子メールかファックスで下記の宛先へお申し込みください(当日参加も可)。

会場への交通：阪急「六甲」駅から徒歩約15分。阪神「御影」駅, JR「六甲道」駅, 阪急「六甲」駅から神戸市バス36系統鶴甲団地行, 鶴甲2丁目止まり行き乗車, 「神大文理農学部前」下車。交通アクセス・キャンパスマップ (<http://www.sci.kobe-u.ac.jp/access/index.htm>) にも掲載されています。

### 参加申込み・問い合わせ先

京都大学大学院人間・環境学研究科 幡野恭子  
〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町

FAX: 075-753-2957 e-mail: [sourui\\_danwakai@yahoo.co.jp](mailto:sourui_danwakai@yahoo.co.jp)



### 徳島県におけるアオノリ、ワカメ・コンブ研究の総括的成果の報告書の紹介

徳島県では鳴門海峡の潮流が良質なワカメを育み、江戸時代から灰干し処理した乾燥わかめが濃緑色で鳴門の特産品となっていた。また、吉野川の天然アオノリは1970年代に生産が皆無に近いほどに減産し、河口域で行われていたヒトエグサ漁場でアオノリ養殖が成功し、現在では吉野川大橋付近が主要なアオノリ養殖場となっている。吉野川の養殖アオノリの年間生産量は80～100トン(乾燥)に達し、その年の青海苔の価格を左右させている。

徳島県では、ノリ、テングサ、ヒジキも良質な製品が出荷されてきた。これらの海藻の品質向上と新しい養殖法が開発されたのは、歴代の徳島県水産試験場海藻部門担当者が精力的にこれらの研究に取り組んだ成果である。日本の有用海藻の養殖技術や品質向上の多くは、各県の水産系研究機関の海藻研究者の研究成果による。それらは、いままです業報告などに記述されているが、多くの藻類研究者の目に届かなかった。

このたび、徳島県立農林水産総合技術支援センター(新組織に改変)水産研究課研究報告第10号(2015)に、アオノリ、ワカメ、コンブの生物学から養殖技術までの総説が掲載されている。これらは基礎資料として貴重な文献である。

團 昭紀：アオノリ類の生理、生態からみた養殖技術の

検証(15～24頁)では、次のように報告されている。アオノリ葉体を細断させることにより、いつでも胞子を得ることができることの生物学的解明から人工種苗生産技術、アオノリ種網の保存まで、安定したアオノリの養殖を可能にした。応用藻類研究者には、これらの技術を他の種でも試みることで、新しい海藻養殖を開発ができるであろう。

團 昭紀・大野正夫・松岡正義：徳島県のワカメとコンブ資源の開発研究の変遷(25～48頁)では、鳴門ワカメの品質的な特性と鳴門式養殖法、特に夏期陸上培養の歴史的な変遷が記載されている。鳴門ワカメの品種改良、養殖と加工法の研究は、三陸地方とは異なるアイデアでなされてきた。コンブ養殖は、今は暖海海域でも行われているが、北海道からの種苗による養殖は先駆的な研究成果であった。しかも養殖コンブは北海道産コンブより柔らかく、用途も開けており、鳴門養殖コンブ生産の拡大はあまりないが、20年を経た今日でも養殖が行われており、コンブ類の成長や品質を比較検討するための資料になるであろう。

これらの報告は、電子公開されており、下記のインターネットのホームページで、検索できる。<http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/suisan/result/bulletin/>

を検索して、研究報告第10号を開くと全文が掲載されているのでご紹介する。

(大野正夫)